

2025-2026 年度

ガバナー 公式訪問

クラブ協議会

と き 令和7年8月27日(水)
ところ ホテル・ヘリテイジ飯能sta.

飯能ロータリークラブ 日高ロータリークラブ

◎各委員長からの報告

14時～14時45分

●土屋 崇クラブ奉仕委員長



RC定款第6条「五大奉仕部門」の第1部門であるクラブ奉仕は、「クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動にかかわるもの」と記されております。委員会の構成表を見ますと、クラブ奉仕委員会は「出席向上委員会」「プログラム委員会」

「ロータリー情報委員会」「親睦活動委員会」等のクラブ活動の根幹を成す委員会を統轄するような形になっております。しかしながらクラブの活動の中心はあくまでも各委員会が担っております。クラブ奉仕委員会としましては今年度の「会員満足度の向上を目指す」という会長方針に従いまして、これらの委員会と連携を取りながら、クラブの活性化、充実した活動の支援を図っていきたいと思っております。

●吉田行男職業奉仕委員長



メンバーとしては木川、大附、中川委員と4名です。今年度、大きく違う部分と言いますと「四つのテスト」を皆で歌おう、歌で表現しようということになっておりまして、前回私が指揮をとらせて頂きました。皆が楽しく活気あるクラブになるよう、大きな声で歌

うように、指揮棒を作って交代で指揮をして、皆さんで歌って頂きたいと思います。「いち、にい、さん、し…」と、こういう感じで、素人なのですが一生懸命練習して皆さんの前で指揮をとりますのでよろしくお願いしたいと思います。職業奉仕ですから、それぞれご自分の職業が如何に社会奉仕に繋がっていくかということを考えて頂くような活動を、委員会としてしていきたいと思います。どうぞ1年間よろしくお願い致します。

●神田敬文社会奉仕委員長



RIのフランチェスコ・アレツォ会長ならびにRI第2570地区の坂口孝ガバナー、そして飯能RCの中里忠夫会長も、今年度の重要課題事項として「奉仕プロジェクト」を掲げておられます。先程もありましたが「飯能RCは何をしているのか」ということを地域

の人達に分かってもらうような事業を起こそうと進みだしております。今年度は委員会の構成表にもありますように、「奉仕プロジェクト委員会」という枠内に、五大奉仕委員会のうちの「クラブ奉仕委員会」を除いた「職業奉仕委員会」「社会奉仕委員会」「国際奉仕委員会」「青少年奉仕委員会」が入り、「環境保全委員会」を含めた5つの委員会が力を合わせて、この飯能市の地域の人達に「飯能RCはこういうことをしているのですよ」というのを分かって頂けるような事業を起こそうというふうに中里会長が強く仰っておりましたので、今、進みだしたところです。どのようにやろうかということですが、飯能には地域のことを思っている団体がたくさんあります。各地区の「まちづくり推進協議会」や「自治会」等、地域を良くしようとしている方達と私達が、おこがましいのですが連携して行いたいと思います。具体的にはこれから煮詰めるところで、各団体に下準備のお話はさせてもらっているところです。中里会長をはじめとして、1年間の中である程度の行動をしていきたいと思っております。先程、坂口ガバナーが仰っていた定款「第3条 クラブの目的」で、「五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施すること」とありましたが、地域社会で存在感が高められる事業をせよということですので、それに則って今年度は進めていきたいと思います。

●小谷野大典会員増強委員長

今年度は会員増強が、2570地区また飯能RCにとって重要な課題となっております。そのような会員増強をどのように進めていくかということを考えてみました。会員増強の目的として、まず



は仲間、人を増やし、活気あるクラブ、強いクラブづくりをしたいなと思っております。「数は力」だけではないですが、人が多ければいろいろと仲間同士で刺激し合い、また、何か困ったことがあったとしても各職種のプロの集まり、経営者の集まりですから、いろんなヒ

ントを頂けると思います。そういった意味でも会員増強は必要なことだと思っております。

また、逆に、入会した本人にとってロータリーライフないしクラブ活動が、その人のためになるような会員増強をして参りたいと思います。誘う時にはどうしても後輩だったり、力関係の弱い人を誘って、何とか入会して頂きたいというのが本音ではございますけれども、その人にとってそのあとのロータリーライフが良いものでなければいけないと思っております。実際に自分が今までに誘った人（岩泉会員）に「RCって面白い？」と聞いたところ、「スゴイ面白いよ。入って良かったよ」と言ってくれました。そんな会員増強を進めていきたいと思っております。

そして私自身、5年前に飯能RCに入ったのですが、入ってからいろんなことに気づきました。中でも、例会が水曜日の昼間ということで、仕事に支障が出るのではないかと、入る前はいろいろ心配したものでございます。ただ、入って例会に出てみると、その週の水曜日というのは私の生活の中の良きリズムになっていることに気づきました。そんなことを仲間へ促して説明しながら、入会を勧めたいと思っております。

また、今でも忘れないのですが、入会して初めに例会に出た時、同じテーブルに居た先輩から、私は水道事業をやっているのですが、「うちの水道をちょっと見てくれないか」と早速仕事の依頼がありました。これはクラブに入ったことで生まれた信頼、また、私に対しての期待というふうに受け取りました。そんなこともあって、入会して私自身も良かったなと思っております。

そして、入会した会員にはやはり長く続けて頂きたい、楽しんで頂きたい、馴染んで頂きたい、RCを活用して頂きたいと思っております。私自身、昨年度、親睦活動委員長をしていたのですが、毎月委員会を開いていました。毎月開かないと事業が滞ってしまうので開かざるを得なかったのですが、委員会の後には懇親会を開いていました。そこには委員メンバーはもちろんですが、入会して間もないメンバーにもどんどん出て頂きました。そうすることで早くRCの輪にとけ込んで頂き、楽しんで頂くように致しました。今年度の親睦活動委員会のメンバーを見てみますと、その懇親会にオブザーバーで来てくれた方が多く入っていて、すごく良かったなと思っております。

会員増強を1年間進めるに当たり、私のほかに2人委員が居り、3人で運営していきます。ただ

3人で頑張ってもなかなか限界がありますので、是非とも飯能RCの会員全員で増強活動を手伝って頂きたいと思っています。そしてまた、入った仲間に対しても、入ってからのフォローを皆さんにお願いしたいと思います。もちろん私自身も動きますが、皆さんのお力をお借りして多くの仲間を増やして、ロータリーライフを楽しんで頂けるような会員増強を目指して参ります。どうぞ1年間よろしくお願い致します。

●川口 浩青少年奉仕委員長



未来を担う青少年の健全育成を支援することも飯能RCの重要な活動の一つです。主な事業は、スポーツを通じて子ども達に健康な心身を育む機会を提供することを目的としたスポーツ大会への支援です。

まず一つは飯能市卓球連盟と飯能RCが主催する「ロータリークラブカップせせらぎ杯中学生卓球大会」。もう一つは「ロータリークラブ杯少年野球大会」です。特に中学生卓球大会は群馬、神奈川、千葉、茨城等、近隣あるいは遠くの県から強い選手、全日本に出てもいいような選手が多く参加する大会へと成長して参りました。スポーツを通じてフェアプレイの精神あるいは健康な体を身につけて欲しいと思っております。

大会の運営や資金の援助を通じて地域のコミュニティに貢献し、RCの存在意義を示すことで公共イメージアップを図ることも目的の一つと考えております。

昨年度、当クラブの複数の会員より財団に多くの寄付を頂きました。210ドルを大きく超えたため、満額の助成金を頂けることとなりました。新型コロナウイルス感染症も落ち着き、各大会への参加チーム数もコロナ禍以前に戻りつつあります。また、回を重ねてきて、どのような支援が重要で効果的かということも学習して参りました。立派なトロフィーや楯よりも「ボールのように実用的な物が実際には有難いんだよね」といった子ども達の本音を聞くこともできました。本年度も充実した無駄のない支援を行って参ります。

地区の青少年プログラム委員会では主に15歳以上を対象とする奉仕活動を行っています。飯能では小中学生を対象としたスポーツ大会への支援が主なのですが、地区の方では15歳以上を対象とした、1つは「アクト・ライラ委員会」、もう1つは「青少年交換委員会」と、2つの委員会による活動が行われています。私個人の意見ではございますけれども、これら2つのプログラムへの参加、協力を検討してもいいのではないかなと思っております。まずは来年5月の例会で、地区のインターアクトクラブの生徒達の活動をご紹介したいと考えております。将来的には飯能にもインターアクトクラブができ、そのメンバーと飯能RCの会員とが協力して地域社会に貢献できるようになれば

とても素晴らしいことだと思います。

また、交換留学生をサポートするホストファミリーにも是非皆様の中から手を挙げて頂きたいと考えております。青少年交換プログラムはロータリアンのお子さん、お孫さんも対象となる事業となっております。国際的な視野を広げ、異文化を理解し、国境を越えた友情を築いてもらいたいとお考えの会員の皆様、お子さん、お孫さんを国際社会に送り出しませんか。

◎坂口ガバナー講評

本来なら委員会ごとに講評させて頂かなくていけないのだと思うのですが、そうなると時間が足らなくなってお帰りが事によると明日になってしまうかもしれませんので、いくつかポイントだけお話をさせて頂きたいと思います。

最初に、クラブ奉仕ですとか職業奉仕、社会奉仕ということで今、皆さんからご紹介を頂いたところがございますが、社会奉仕あるいは国際奉仕という非常に分かり易いですね。ただ、「クラブ奉仕って?」「職業奉仕って何?」という非常に難しくなってくる。「クラブに奉仕」→クラブに何を奉仕するのか。「職業奉仕」→仕事に何を奉仕するのか。お金を払ったことはありますでしょうか。クラブにお金を払う、ニコニコに払う、ですか?…ということになってしまう。

この「奉仕」という言葉ですが、1920年、日本に初めてRCができました。米山梅吉さんが福島喜三次さんにご尽力を頂いて「東京RC」を創ったところがございます。当然、定款細則は英語です。ですから英語の定款細則を米山さんは一生懸命日本語に訳したわけです。今はRIから日本語訳が来ますが、当時は自分達で訳したということだそうです。さて、英語の「サービス」を日本語に直す言葉が要るということでしたが、サービスだけはそのまま残りました。定款が変わろうが何しようがサービスだけはずーっとサービス（当時の表記はサーヴィス）でした。ところが第二次世界大戦が始まって敵性語が使えなくなり、日本語に変えなくては行けないというところで、その時に訳した方がサービスを「奉仕」と訳してしまったというところなんです。これは日本で言う最大の誤訳

ではないかと私は思っておりますが、「奉仕」をどうやって理解するのか。

いろんな考え方があるのですが、1つは「貢献」、もう1つは「(何かに対する)責務」あるいは「務め」。そうすると非常に分かり易い。クラブに対してする務め、あるいは貢献というところでございます。どういうことかと言うと、例えば各種ご案内がくる。中には返事をしなければならないものもある。せっかく頂いた案内なのだからできるだけ速やかにちゃんと返事をしようよ。出席の案内が来た。「今月の出欠を教えてください」という時に、当初は「出席」で出していたけれども、都合をつけなかったので「欠席」になってしまった。「ま、いいか」ということではなくて「必ず報告しよう」というのがクラブに対する「務め」「責任」なのです。「職業奉仕」も同じだと思います。自分の職業、自分の仕事に対してどの程度貢献できるのか、自分の仕事の務めって何だろうかと考えて頂きたい。例えば、昨日も職業奉仕委員会の中でお話をしたのですが、よく社会奉仕の一つの物語を話す時に、RCで最初の社会奉仕はシカゴのトイレを造ったことである。職業奉仕は何かと言うと大体靴屋さんの話になってきます。要はお金を云々ということではなくて、あくまでも仕事「天職Vocation」なのです。是非そのところは間違えないようにして頂きたい。

例えば私は飲食業をやっておりますが、お金を儲けてはいけないということではないのです。少しサービスしなさい、お金をまけてあげなさいということではなく、来たお客さんにどのように喜んで帰って頂けるかなのです。例えば2,000円の食事が、お客さんが帰る時に、おもてなしや味や対応も全て含めてどの位満足して帰って頂けるかというのが、自分の仕事に対しての務め、職業奉仕の考え方なのだろうと私は理解しております。

この「奉仕」を理解する時にどうしても奉仕=無償ということを考えてしまう。お金を得ることを目的にしていけない、ただ出すだけ、というところがございますが、英語でいう「サービス」は有償のものもあるということをご理解頂きたいのが一つでございます。

そして、社会奉仕です。今やっていることの大体が、皆さんがお金を集めるか、あるいは地区補助金DDF(地区財団活動資金)で賄われます。先程、満額1,200ドル分のお金を頂いたという報告がありましたが、是非皆さんに「やってみてください」とお願いしたいのです。「グローバルグラント」という言葉を聞いたことのある方はいらっしゃるでしょうか。「グローバル補助金」というものです。これには最低3万ドル以上、約200万ドル以下という規定があるのですが、せめて最低の3万ドルということで仮定したとして450万円です。このお金がRI、ロータリー財団から出ます。それを活用して地区がそれを申請して、うちの地区で1万



ドル。海外のスポンサークラブが必要になりますが、ここが1万ドルを負担する。合計5万ドルです。例えば飯能さんと日高さんが合同でやっとなんとすると最低1,000ドルでも結構ですから出してください。そうするとクラブの事業ということになりますから、ほぼ5万ドル。150円で計算すると750万円の事業ができるというところがございます。インパクトがあると思いますが、どうも日本の方というのは海外でやるのがグローバル補助金 (Global Grants) だと思っている方が多いのですが、これは地区でも日本でもできます。昔、日本が急成長している時には他国の方がGDPも低くて日本の方が遥かに裕福な国だった。ところが今は逆転現象が起きていますので、どちらかという海外に投資するよりも日本に投資するということもまた必要なかなと思います。当然「国際奉仕」ということでこのお金を使って頂くこともいいのかなと思います。是非その辺もご協力を頂きたい。是非使ってみてください。ただ1つの委員会だけでやるというのは大変だと思いますが、飯能さん、日高さん、素晴らしいクラブだと思いますので、このクラブであれば可能なかなとも思っております。ノウハウについては地区がご支援をさせて頂くことをお約束させて頂きたいと思います。ただ、このグローバルグラントを使った時には地区補助金は頂けませんのでその辺はご理解を頂きたいなというふうに思っております。

青少年奉仕の中で、15歳から18歳というお話があったのですが、地区ではなくRIのプログラムの中のインターアクトは12歳から18歳まででございますので、インターアクトを創ろうと思えば中学校からできます。地区の中でも1つだけ中学生の入ったクラブがありますので、是非そういったところともコンタクトして接点をもって頂ければいいかなと思います。

また、青少年交換ですが、今年度、8月19日にウクライナから交換生が来ました。戦地を10時間バスに乗って越えてポーランドに入って、ポーランドから日本に来たということでございます。それと交換でこちらからも行っております。うちの地区内ではないのですが高崎の子です。そのお父さんがご住職ですでにご逝去されてしまったのですが、青少年交換の方で大変ご尽力頂いた方でした。自分の目の黒いうちに娘をポーランドへ支援に行かせたいと言っていた方でしたが結局目の目を見ずに逝ってしまわれたということでございます。今年、そのご息女がポーランドへ行きましてウクライナ寄りの地域でウクライナの難民を支援しています。年齢は17歳。17歳の子が今、ポーランドへ行ってウクライナの子ども達を支援しているということでございます。地区でもこういうことをやっているのだということを是非応援して頂きたい。ウクライナからの学生は今、一生懸命プレゼン用のパワーポイントを作っております。うち



の会長がホストファミリーをやっているのですが、「戦争の話を入れていいか」ということで「入れていいよ」という話もしてあります。今はまだ日本語がたどたどしいですが、3か月位してくると日本語がほぼ話せるようになってくるので、お声がけ頂いて、30分の話ができるかできないか分かりませんが、15分位でしたらできるだろうと思います。是非生の声を皆さんに聴いて頂きたいなというふうに思います。

最後、余談ということで聞いて頂きたいのですが、先程白井さんが「ロータリーバッジをつけていればどこでも行っていいいんだよ」と言われていましたが、まさしくその通りでございまして、逆に私が言いたいのはそのバッジの意義でございます。

バッジって何で皆さんつけているのですか？

うちのクラブはバッジして来ないとニコニコに寄付が行くのです。何でこのバッジをして来なければいけないのか。これにはロータリアンの基本がございまして、ロータリアンたるもの、ある程度のプライド、そして気品、当時は一業種一人でしたからその業種の中で選ばれた方であるということです。ですので、このバッジの意味は簡単に言うとフランス語の「ノブレス・オブリージュ (高貴なる者の務め／責務／義務)」ということになります。ロータリアンである以上、その気持ちを忘れずにこのバッジをつけてくれという意味合いです。本来は外出する時、RC関係でなくてもつけて頂きたいというのがRCからのお願いでございます。そしてこのバッジを思い出す度に、私は選ばれたうちの一人なのだとすることを肝に銘じ、ノブレス・オブリージュの気持ちを胸に抱いて頂いて、RC活動に邁進して頂ければというふうに思っております。

飯能RC、日高RCに私が何かを申し上げることはもう何もございませんが、是非これからもっともっと活躍して、大きな強いクラブになって頂きたいと思います。そしてもう一つ、地区内では、いつ飯能からガバナーが出るのだろうということで期待しておりますので、是非近いうちに出て頂けることをご期待申し上げまして、私の講評に変えさせて頂きます。有難うございました。